

水稲新品種「アカネモチ」について

岡田正憲・西山 寿・本村弘美・志村英二・甲斐俊二郎・和佐野喜久生

(九州農業試験場)

OKADA, M., NISHIYAMA, H., MOTOMURA, H., SHIMURA, E., KAI, S. and WASANO, K.
A New Variety of Paddy Rice Plant, "AKANEMOCHI"

かねて配付試作中の水稲西海糯 117号は昭和47年から長崎・熊本県で奨励品種に、大分県で認定品種に採用され、通称名を「アカネモチ」として普及に移されたので、その育成経過ならびに特性その他の概要をのべて参考に供したい。本品種の育成に直接従事したのは筆者等および藤井啓史・今井隆典であるが、関係各府県農業試験場・支場・分場・試験地の各係官のご協力によるところが大きく、ここに深甚の謝意を表したい。

1. 来歴ならびに育成経過

アカネモチは昨年の新品種ヒヨクモチと姉妹品種である。昭和38年、農林省九州農業試験場(筑後市)でホウヨクを母、祝糯を父として人工交配を行ない、その後も同場で世代促進を適用しながら、集団育種法により育成されたものである。昭和43年F₈より「西海糯 117号」の系統名で関係府県に配付して、地方的適否が確かめられ、昭和47年度(F₁₂)に水稲農林糯 227号として登録された。

2. 特性の概要

(1) 形態的特性 「祝糯」に比べた場合、稈長は約27cm、穂長もわずかに短い、穂数は多く、極短稈穂数型の糯品種である。稈は細く、穂はまれに褐色の短芒をつけ、ふ先は褐色で、ふ色は紫褐色である。粒着密度は中位で、脱粒性はやや易である。玄米の形状は中形で、粒の大きさは中の小で、乳白色を呈し、品質・食味ともに良好である。玄米千粒重は祝糯よりやや軽く、草状はコマサリによく似ており、止葉は直立し、熟色はよい。

(2) 生態的特性 出穂・成熟期は「祝糯」より2～3日早く、九州北半では中生に属する。倒伏にはきわめて強く、備南糯や祝糯にまさる。白葉枯病II型菌(従来菌系)には黄玉程度に強く、祝糯、備南糯、サイゴクモチにはるかにまさる。いもち病には弱くて前記三品種と同程度であるが、紋枯病には

中程度である。

3. 適地および奨励品種採用県

本品種は昭和43年から4ヵ年にわたって地方的適否が検討されたが、とくに長崎県、熊本県、大分県ですぐれた成績をしめし、これら各県の中山間地帯から山麓平坦、沿海地帯にかけて適し、なかでも肥よく地ならびにいもち病の発生の少ない地に最も適している。昭和47年から長崎・熊本県で奨励品種に、大分県で認定品種に採用された。

第1表 アカネモチの一般特性(九州農試)

形 質	アカネモチ		祝 糯		ヒヨクモチ	
	標肥	多肥	標肥	多肥	標肥	多肥
出穂期(月、日)	9. 7	9. 5	9. 9	9. 8	9. 9	9. 9
稈長(cm)	63	66	90	93	66	69
穂長(cm)	18.3	18.5	20.7	21.2	18.9	19.2
穂数(本/m ²)	376	401	361	367	370	384
a当玄米重(kg)	51.0	53.0	50.5	48.9	53.1	55.3
玄米千粒重(g)	20.9	20.9	22.5	22.5	22.6	22.7
玄米品質	3	3	4	4	3	3
早 中 晩	中	中	中	晩	晩	早
草 芒の多少	短	短	中	短	短	短
ふ 先	紫	褐	赤	褐	黄	白
脱 粒	性	易	や	難	や	易
耐 倒	伏	強	弱	弱	強	強
葉いもち耐病性	弱	弱	弱	弱	弱	弱
穂首いもち耐病性	中	中	弱	弱	中	強
白葉枯耐病性(II型)	強	強	弱	弱	強	強
紋枯耐病性	中	中	—	—	—	中
食 味	良	良	中	中	良	良

注) 1. 玄米品質は数値の小さいほど良いことをしめす。
2. 調査年次は 標肥：昭43～46年の4ヵ年、多肥：昭42～46年の5ヵ年の成績。

4. 栽培上の注意

熟期の点で、九州地方では、標高 300m以上の山間地や高冷地への導入は不適である。極短稈のため、栽植密度・施肥法・施肥量などはヒヨクモチと同程度でよい。葉いもち病・萎縮病に対して弱点をもっているため、極端な早植をさげ、窒素成分の偏用や過多をさけるようにし、なるべく集団的な病虫害防除や管理をすることが望ましい。

5. 命名の由来

「茜糯」を意味し、ふ色があかね色の糯品種であることに因む。